暮らしコンパス

防災教育

災害対策「自分目線」で

トランプ、地図で意識向上

地震や津波、台風などの災害に備えるため、被災時の状況をきめ細かく想定し、被害を最小限に抑えることを目指す防災教育が注目されている。使うのはトランプやハザードマップ（被害予測地図）。画一的な防災対策とは異なり、「自分目線」で日常に潜む危険や対策を考え、防災意識を高めるのが狙いだ。

11月初旬、東京都千代田区の区民会館にある会議室。休日の夜、集まったサラリーマンや大学生ら10人以上がトランプに興じていた。ただ、使っているのは普通のトランプではない。全ての札に災害の危険事例が記された「防災トランプ」だ。

このトランプは「ばば抜き」や「ポーカー」などで活用できる。例えば「ばば抜き」では通常と多少ルールが異なり、同じ数字がそろっただけでは札を捨てることができない。札に書かれた災害や危険に対し、自分が取るべき行動などを話し、他の参加者を納得させることも条件となる。

記者も初めて参加。「高台がない平野部の沿岸域にいるときに津波警報が発令された」と書かれた札を捨てようとして、説明を始めた。

「高い建物を探し、上の階に逃げます」。「通勤途中だったらどうしますか」と、他の参加者が質問した。「普段使っている地下鉄の駅は深い場所にあるので、階段を駆け上がらなければなりません」。「今履いているハイヒールでは難しそうですね」と参加者。記者は歩きやすい靴を履くことの大切さを確認し、札を捨てることができた。

トランプを考案したのは、東大大学院で都市工学を専攻するNPO法人理事の福本皇さん（31）。揺れを感じたら机の下にて、想定しなければならないことも決まった。

「防災トランプは、被災した時間や場所によって、必要と考えたのが開発のきっかけだ。

福本さんは何度もトランプ講習会を開催。消防や企業の防災担当者、社会福祉を学ぶ大学生らが参加した。福本さんが住む神奈川県愛川町の一部地区では、全世帯に配る。

災前に避難用スロープを設置して児童73人と教職員全員が助かった経験がある。同小では昨年11月、子どもたちが参加し、新たな津波避難マップの作成に着手した。

地震や津波は学校にいる時に発生するとは限らない。学校や自宅以外の場所に1人でいる時に発生したらどのように行動するべきかを子どもに考えてもらうのが狙いだ。

最大の特徴は、津波による浸水地域などが分かるハザードマップに、子どもが自宅近くの避難場所や崖崩れなどの危険箇所を書き入れ、「自分仕様」にアレンジしたこと。想定される避難経路を保護者が子どもと実際に歩き、体力を考慮して避難が可能かどうかを確認。さらに行政担当者といった防災のプロの意見も取り入れ、独り善がりな内容に陥らないようにした。

作成に協力した防災科学技術研究所（茨城県つくば市）の臼田裕一郎主任研究員は「行政がインターネットなどで公開しているハザードマップの情報は、ほとんど使われず眠っている。ハザードマップを子どもたち個人の情報を加えて作り替えた例は珍しい」と話した。

「防災トランプ」を楽しむサラリーマンら＝東京都千代田区

防災トランプに書かれた危険の例

- ♠スペード4：古い木造の飲食店にいるときに強い揺れが起こった
- ♠スペードJ：高台がない平野部の沿岸域にいるときに津波警報が発令された
- ♣クローバー3：外にいるときに雷鳴が聞こえ、稲光が見えた
- ♣クローバーK：竜巻が発生した
- ◆ダイヤQ：原子力発電所がメルトダウンした

アジアビジネス

ソウル市内で開かれた「マッコリの日」の式典で、マッコリを試飲する参加者＝10月31日（聯合＝共同）

マッコリ復調へ試行錯誤

韓国、日本向け大幅減で

韓国の伝統酒、マッコリの消費が落ち込んでいる。輸出の9割前後を占めていた日本向けが円安などの影響で大幅に減った。韓国内でも若者を中心としたブームが落ち着き、消費は下降気味だ。韓国政府は輸出先の増加やイベント開催による人気回復を目指し試行錯誤している。

「マッコリの世界化のために乾杯」。ソウル市で10月31日に「マッコリの日」の式典が開かれ、出席者が祝った。政府は10月の最終木曜日を「マッコリの日」に指定。新米を使ったマッコリが一斉に発売された。

フランスのギヨーム・ガロ農産加工業担当相と韓国の李桐弼農林畜産食品相は式典でワインとマッコリを交換。主催した農林畜産食品省は「日本に偏っていた輸出先を増やすため欧州で知名度を上げたい」と意気込む。

同省によると、韓流ブームにより増加してきたマッコリの対日輸出は、2011年に過去最高の約4840万ドル（約50億円）を記録。だが12年は3割以上減少し、今年は10月までの累計で前年同期比6割減となった。同省の輸出担当者は「輸出が伸びつつある中国や東南アジアでの需要を喚起して活路を見いだしたい」と話す。

政府は試飲会や品評会といった国内のイベントを後押しする。旅行客らがマッコリの蔵元を見学するツアーで、条件を満たした蔵元に補助金を支給し、見学施設を整備しやすいようにしている。

中西部の唐津にある新平醸造所は創業80年。ここでは発酵する様子を見たり、つくりたてのマッコリを試飲したりできる。11月初めのツアーには日本人を中心に約20人が参加した。金容世代表（69）は「さっぱりとした味に仕上げた。世界中の人に味わってもらいたい」と語った。

ツアーを引率したコラムニストの明煜さんは「マッコリも日本酒のように蔵元ごとに個性がある。奥深さを知ってもらえれば」と話す。見学できる蔵元を増やし、フランスのワイナリーめぐりのようなツアーとして定着させたい考えだ。

この人この仕事

東京税関監視部
木村 真人さん

麻薬や覚せい剤は、人が使うと、心も体もぼろぼろになり、命を落とすこともある。持っていたり、使ったり、売ったりすれば、警察（けいさつ）につかまる。

訓練では麻薬のにおいを少しだけつけたタオルを使う。箱の中やふたをしたかべのあなにかくしたタオルを犬が見つけると拍手（はくしゅ）してほめる。くろを見つけ出す。